

第7期 第3回サポートセンター運営協議会 活動促進部会 スケジュール表

資料 7

			令和4年度		令和 6 年度														令和 7 年度																																												
			3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		4 月		5 月																																
会 議 日 程	部会開催日								6月27日		7月13日		8月13日		9月10日		9月27日										1月19日																																				
	運営協議会開催日								全体会						全体会						全体会																																										
6 期からの継続事業																																																															
1. センターイメージチェンジ事業																									企画概要検討																																						
月替わりパネル展示					展示団体募集				抽選・連絡				6 月展示				7 月展示				8 月展示				9 月展示				10 月展示				11 月展示				次年度公募企画検討				募集要項確定				出展団体募集開始				出展団体選定				展示決定団体通知				5月展示						
7 期からの継続事業																																																															
事業企画グループ																																																															
公募型市民交流会																	企画紹介				9/12担当団体公募開始				活動推進部会で審査				担当団体決定・広報原稿作成				12/1 公募開始				市民公募講演会				次年度公募企画検討																						
はじめの一步																									企画内容に関する詳細な検討												広報ふなばし原稿作成				企画集客用広報物制作				広報ふなばし3月15日号にて企画参加者募集				WS①														
情報発信グループ																																																															
情報発信のあり方について													状発信媒体に関する現状把握				媒体ごとの役割の明確化								情報発信媒体の役割分担の明確化と配信内容の整理																																						
しみんりよく																	61号検討				61 号発行				アンケート実施				アンケート結果解析				「しみんりよく」掲載内容の再検討				新62 号編集作業				新62 号発行予定																						
X																	7 報投稿				4 報投稿				4 報投稿																																						
「第3回の検討内容」																																「第2回の検討結果」																															
事業企画グループ(廣田・森・依田・南山) 公募型交流事業の実施について 公募型交流会企画について、富沢主事より説明があった。審査を活動促進部会で行うことが提案され、異議なく了承された。また、これに伴う日程の修正についても協議・了承された。 今後の主なスケジュール 9月11日(水)-10月6日(日) 申し込み期間 10月8日(火) 活動促進部会で申し込み資料を部会委員に共有 一週間後をめどに採点結果を集計し、平均点の最高点の団体を採択団体とする。 関連団体については審査ができないこととする。 Top の団体が同点であった場合の採択は市民協働課に一任する。 10月中旬 審査結果通知 → 広報原稿の調整 12月1日号 広報ふなばしで企画の参加者募集開始 2025年1月中旬 参加者募集締め切り 実施予定日 2025年1月19日(日) 事後に行うアンケートについて検討する。 市民活動ははじめの一步ワークショップ企画案（南山委員、事務局） 資料5を利用して富沢主事と南山さんより企画の経緯とコンセプトなどについて説明があり、対象や内容などについて検討を行った。 ターゲット：現在、市民活動を行っている年代よりも若い年代(30～40代) 目的：市民活動を身近に感じて簡単なところからでよいので活動を始めたり・参加したりしてもらえるようにする。 内容については3回の連続講座として検討しているが、先行事例を知る会、市内の市民活動や市民活動全般の話を学ぶ会、考えた内容を発表する会などを行い、その内容について協議した。 次年度4月から講座を実施すると仮定した場合のスケジュール案 2024年中 企画内容詳細検討、講師依頼 1月中旬 広報ふなばし原稿提出 2月 広報物作成 3月15日号 広報ふなばしで告知 → 参加者募集 2025年4月 WS① 2025年5月 WS② 2025年6月 WS③ 次回10月までに南山さんと森さんを中心により詳しい企画内容をご検討ください。 情報発信グループ(柿崎・南山・斎木) しみんりよくについて 資料6,12に基づきしみんりよく61号の内容と配信先について小山さんから報告があった。 Xアカウントしみんりよく@船橋について(市民協働課・南山) Xの運用状況について小山主事から報告があった。サポートセンターに掲示物の写真の投稿はまだ行われていないことが報告された。 現在投稿内容や投稿スケジュールまで市民協働課で作製しているが、今後は活動促進部会で検討したい。 情報発信媒体の利用状況について（柿崎） 資料9に基づき柿崎委員から現在サポートセンター運営協議会が関わる情報発信媒体の運用状況などについて報告された。 今後、それぞれの媒体の発信対象や内容などについて検討する 「しみんりよく」ニーズ調査アンケート 小山主事から資料10,11に基づいて「しみんりよく」のニーズ調査の方法やアンケート内容について説明があった。																																1 議題 事業企画グループ(廣田・森・依田・南山) 公募型交流事業の実施について 配布資料1～4について廣田委員から説明があった。募集要項にこの企画の目的を明記すること交流会の審査要領を募集要項と共に公開すること、事後にアンケートを行うことなどの修正をして9月1日から募集を開始することになった。 今後の主なスケジュール 8月中 サポートセンター登録団体に企画に関する資料を配信する。 9月1日(日)-9月30日(月) 申し込み期間 10月上旬 審査会 10月中旬 審査結果通知 → 広報原稿の調整 12月1日号 広報ふなばしで企画の参加者募集開始 2025年1月中旬 参加者募集締め切り 実施予定日 2025年1月19日(日)or2月2日(日) 市民活動ははじめの一步ワークショップ企画案（南山委員、事務局） 資料5について事務局と南山委員から説明があり、次回内容について詳細に検討することとなった。 次年度5月からワークショップを実施すると仮定した場合のスケジュール案 2024年中 企画内容詳細検討、講師依頼 2月 広報物作成 3月15日号 広報ふなばしで告知 → 参加者募集 2025年5月 WS① 2025年6月 WS② 2025年7月 WS③ いずれの企画も内容が固まったら市民大学に企画内容を連絡する。 情報発信グループ(柿崎・南山・斎木) 情報発信媒体の利用状況について（柿崎） 資料12に基づき柿崎委員から現在サポートセンターに関する情報を発信している媒体の利用状況が説明された。また矢田課長・富沢主事からしみんりよく発見サイトの編集画面を使って利用方法・利用状況などが紹介された。船橋市情報メールでも不特定多数の市民に向けた情報発信を行っていることが追加された。 Xアカウントしみんりよく@船橋について(南山) 小山主事から資料6,7,9について説明があった。投稿に関する閲覧数などを元に協働課内の議論で一部修正され、一部の配信に対してフォローを許可することになった。 南山委員から情報発信媒体の役割分担について整理するなかで、Xでの情報発信の目的や想定されている配信対象、発信内容などについても再検討が必要ということになり、今後グループで検討してゆくことになった。 小山主事・富沢主事から資料8について説明があった。サポートセンターに掲示物として持ち込まれたものについて、写真を撮ってXに配信することが提案された。部会での議論の上、最初は持ち込まれたものの写真のみを投稿することになった。 しみんりよくについて(南山) 小山主事・富沢主事から資料9を使ってしみんりよく61号の編集状況が報告された。 印刷・郵送コストなども考えて配布先や内容などを再検討する必要がある。 こうした議論を踏まえ、次号2024年12月号を休刊し、アンケートなどを取ってこれまでの効果検証をすると共に、市民活動サポートセンターからの情報発信媒体の一つとして新しい目的付けで想定されるターゲットを明確にするとともに、それに合わせた内容に大幅に修正することを検討することになった。																															